

# おおふな

2024年8月6日 No.4

発行者:小林 洋一 編集:情宣部

J R 東 労 組

大 船 支 部

## 大船支部第28回定期大会開催！！④

### 大会宣言 ~~(案)~~

JR東労組横浜地本大船支部は、本日ここ玉縄学習センターにおいて第28回定期大会を開催し、運動方針・スローガンのもと取り組みを明確にし、全組合員で満場一致した。

昨年8月5日に発生した大船駅構内での架線柱衝突事故から1年が経とうとしているが、事故や事象の負の連鎖が止まらない。4月26日に東海道線の生見尾踏切で発生した人身事故では運行を最優先にし、安全確認を行わず運転を再開し、救出活動や現場検証を行っていた方々を危険に晒す結果となった。会社は「対応に問題ない」と言っているが、私たちが声を上げなければ、責任を逃れるため検証も行わず個人の責任とし幕引きを図ろうしている。私たちは安全より運行・利益優先の会社姿勢を許さず、安全を確立するたたかいを押し進めよう。

6月8日には組織内において不祥事が発覚してしまった。当時の本部副委員長が鉄道の安全を阻害する事象を起こしてしまった。組織を強化・拡大していく中でこのような行為は、今まで築きあげてきた信頼が一瞬にして崩壊してしまう事象であり、許されるものではない。私たちは不幸な社員を生み出さないためにも、相互に指摘できるよう職場で議論をつくり出していく。

2024JR総連春闘ではメッセージ行動を中心にしたたかってきた。賃金が物価の上昇に追いつかず、また会社の施策により私たちの賃金は過去最高の働き度の中で低いままである。私たちの現実を会社に訴えるべく、5年振りとなる横浜地本春闘総決起集会にも積極的に参加し、声掛け運動を行った。その結果多くの組合員が参加し、未加入者の方にも参加してもらい多くの成果があった。メッセージと共に会社に現状を突きつけたが、会社の姿勢を崩す事が出来ず、満額回答を得ることができなかった。しかし得るものも大きく2025春闘に繋がる足掛かりができた。

今会社は多くの不適切事象を起こしている。会社ぐるみでのパワハラやセクハラ、「安全研修」という名の買収・脅迫やJR東労組への誹謗中傷、不正を隠そうとするための信任投票などJR東労組を敵視した職場管理が横行している。権力による支配を行い、物を言えぬ社員づくりが強化され、安全より利益が追及されている。「安全は輸送業務の最大の使命である」の言葉通り、最大の使命である安全を守るため私たちは「命と安全」を価値基軸に、「安全・健康・ゆとり・働きがい」の職場をつくりだそう。

自民党岸田政権は台湾有事の懸念を理由に、南西諸島へのミサイル基地の新設、空港や港などを整備し、戦争する国へと着々と歩みを進めている。背景には戦争をすることで莫大な利益を得ているアメリカの思惑や、利権が絡んでいることを忘れてはならない。平和で安心して暮らせる社会を実現するために、横浜地本推薦議員等懇談会との連携や19日行動の参加などを通じて、共に行動していく仲間をつくり出し、未来を切り拓いていこう！

以上宣言する

2024年7月27日

東日本旅客鉄道労働組合

横浜地本大船支部

第28回定期大会

新たな体制で大船支部はたたかいます！！よろしく願いいたします！！